

ゆ び ほんむら
柚比本村遺跡 1

鳥栖市教育委員会



柚比本村遺跡全景（南から）

遺跡は柚比町字前田にあり、弥生時代中期（約2100～1900年前）を中心とする遺跡です。ここからは当時のこの地域の有力者たちの墓や、弥生時代では最大規模の建物跡、まつりに使った大量の土器を埋めた跡がみつかっています。

墓地は、大部分が約2100～2000年前の甕棺墓^{かめかんぼ}で、その中央部にはこの墓地の中で最も古い時期の木棺墓^{もっかんぼ}があります。これらの中には副葬品をもつものがあり、銅剣7本、青銅製把頭飾^{せいとうせい はとうしよく}（剣の柄頭の飾り）^{つかがしら}2点、銅剣の柄の金具と石製の把頭飾^{あかうしぎよくでんそうさやつきどうけん}、赤漆玉鈿装鞆付銅剣^{まがたま}（玉で飾った銅剣の鞆）、鉄剣、ガラス製勾玉などが出土しました。

大型の掘立柱建物跡は約2000～1900年前のもので、墓地を意識して建てられていることから、先祖の供養に関するまつりを行った祭殿であるとおもわれます。また、大型建物跡と墓地の中間に位置する掘立柱建物跡は、大型のそれと向きをそろえており、拝殿とかんがえられます。大量の土器はそのまつりのときに使われたものでしょう。

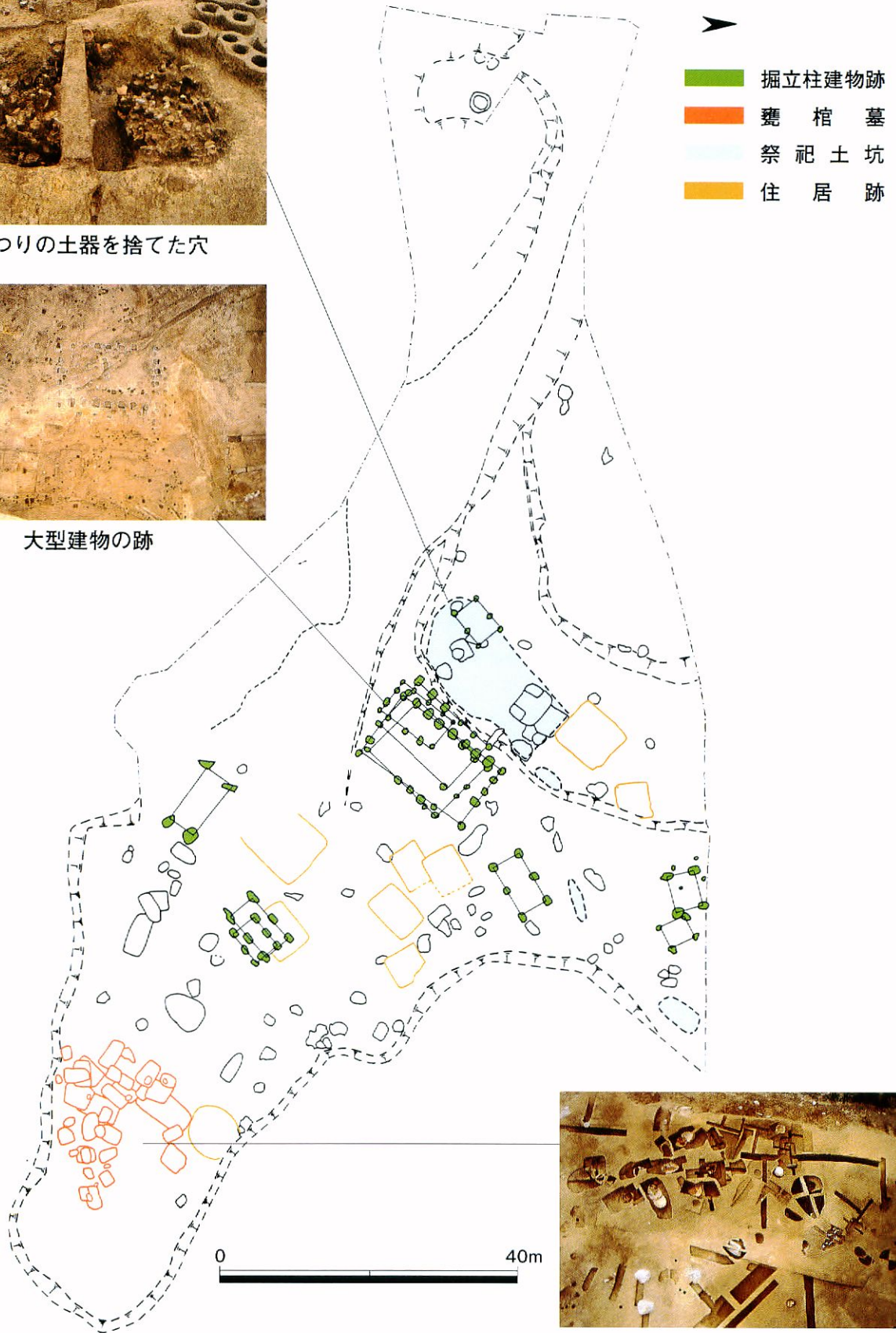
こうした首長クラスの墓地とまつりに関係する大きな建物、そしてお祭りに使う大量の土器を埋めた跡がセットになって発見された遺跡は他にはなく、弥生時代の“まつりごと”の実態を探る上で大変重要な遺跡です。



まつりの土器を捨てた穴



大型建物の跡



甕棺墓群

遺構配置図